

## 平成23年7月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成22年12月9日

上場取引所 大

上場会社名 シーシーエス株式会社

コード番号 6669 URL <http://www.ccs-inc.co.jp>

代表者 (役職名) 代表執行役社長

(氏名) 米田 賢治

問合せ先責任者 (役職名) 経理財務グループマネージャー

(氏名) 梶原 慶枝

TEL 075-415-8280

四半期報告書提出予定日 平成22年12月15日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成23年7月期第1四半期の連結業績(平成22年8月1日～平成22年10月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年7月期第1四半期	1,370	52.2	99	—	73	—	75	—
22年7月期第1四半期	900	△24.2	△245	—	△268	—	△149	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
23年7月期第1四半期	3,658.47	3,655.45
22年7月期第1四半期	△7,470.44	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
23年7月期第1四半期	5,279	1,087	20.6	52,656.69
22年7月期	5,237	966	18.5	48,278.06

(参考) 自己資本 23年7月期第1四半期 1,087百万円 22年7月期 966百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
22年7月期	—	—	—	2,000.00	2,000.00
23年7月期	—	—	—	—	—
23年7月期 (予想)	—	—	—	2,000.00	2,000.00

(注) 当四半期における配当予想の修正有無 無

### 3. 平成23年7月期の連結業績予想(平成22年8月1日～平成23年7月31日)

(%表示は、通期は対前期、第2四半期(累計)は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期 (累計)	2,700	38.4	△10	—	10	—	△30	—	△1,452.08
通期	5,980	25.2	350	—	420	—	240	—	11,616.65

(注) 当四半期における業績予想の修正有無 無

4. その他（詳細は、【添付資料】P.4「その他」をご覧ください。）

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動 無

新規 一社（社名 ）、除外 一社（社名 ）

（注）当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 有

（注）簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 無

（注）「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む） 23年7月期1Q 20,660株 22年7月期 20,660株

② 期末自己株式数 23年7月期1Q 一株 22年7月期 638株

③ 期中平均株式数（四半期累計） 23年7月期1Q 20,591株 22年7月期1Q 19,992株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. その他の情報	4
(1) 重要な子会社の異動の概要	4
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要	4
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要	4
(4) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 継続企業の前提に関する注記	9
(5) セグメント情報	10
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	10
4. 補足情報	11
(1) 生産、受注及び販売の状況	11
(2) 海外売上高	12

## 1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

### (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期連結会計期間における我が国経済は、海外経済の改善や経済対策を始めとする政策の効果などを背景に、企業収益は改善されつつあります。しかしながら、海外景気の下振れ懸念や為替相場の変動、雇用情勢の悪化懸念等により、先行きは依然として不透明な状況にあります。

このような状況の中、当社グループのLED照明事業の工業用照明分野において、企業収益の回復やアジア地域を始めとする海外需要の増加による設備投資の持ち直しにより、受注状況は安定して推移しております。

また、連結子会社である株式会社フェアリープラントテクノロジーは、平成22年9月に商号(旧 株式会社フェアリーエンジェル)を変更し、新体制のもと、植物育成プラント事業の確立に向けて、構造改革に着手しており、不採算事業である「野菜事業」、「レストラン・カフェ事業」から当第1四半期連結会計期間末をもって、撤退いたしました。これにより、植物育成プラント事業に経営資源をシフトし、同事業の事業基盤を強化するとともに、損益を改善してまいります。

さらに、三菱化学株式会社と平成22年7月26日付で締結しました業務提携に基づき、同社との連携を開始しております。

また、販売費及び一般管理費は、グループ全体で引き続き事務の合理化を進めております。

以上の結果、当第1四半期連結会計期間は、売上高1,370百万円(前年同期比52.2%増)、営業利益99百万円(前年同期 営業損失245百万円)、経常利益73百万円(前年同期 経常損失268百万円)、四半期純利益75百万円(前年同期 四半期純損失149百万円)となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

#### ① LED照明事業

##### (a) 工業用照明分野

工業用照明分野は、景気回復とともに電子・半導体業界の設備投資が再開され、受注は好調に推移しました。また、国内におきましては自動車業界に加え、三品・太陽電池向けは堅調に推移しました。海外では、欧州におきまして電子半導体関連向けが好調に加え、化学・薬品の検査用途向けのライン照明が好調に推移し、大幅な売上拡大となりました。

このような状況下におきまして、工場での環境配慮とコスト削減につながる製品として、平成20年にハロゲン光源の置き換えを狙ったLED光源ボックス「PFBシリーズ」を、今回さらに高出力・低消費電力の「PFB2シリーズ」(平成22年10月1日)を発売いたしました。ハロゲン光源ボックスの置き換えとして拡販に努めており、活発な引き合いを頂いております。

また、新たに製造検査現場の狭い場所に最適な小型パー照明「LDL2-33×8」(平成22年8月23日)を発売し、製品ラインナップの拡充に取り組みました。

##### (b) 新規事業分野(民生・商業分野、アグリバイオ分野、メディカル分野)

民生・商業分野では、前連結会計年度に開発した世界最高レベルの高演色性を持つ“自然光LED”を使った初の商業施設用LED照明「自然光LEDランプ」が、財団法人日本産業デザイン振興会が主催する「2010年度グッドデザイン賞」(Gマーク)を受賞いたしました。また、当第1四半期連結会計期間には、“自然光LED”を使った宝石や貴金属の輝きを引出す「ダイヤモンドライト」を開発いたしました。「自然光LEDランプ」「LED薄型ライン照明」「ダイヤモンドライト」と自然光LED製品のラインナップを拡充し、色の再現性を重視する化粧品や宝飾店、美術館・博物館等のディスプレイや販促向けに拡販に努めております。

アグリバイオ分野におきましては、大学・研究機関等向けに、植物研究用LED照明「ISシリーズ」の拡販に努めるとともに、株式会社フェアリープラントテクノロジーと共同で植物育成用のLED照明を開発いたしました。

メディカル分野におきましては、主力事業である工業用照明分野で培ってきたLEDの技術を応用し、医療用LED照明の製品開発を進めております。

以上の結果、当第1四半期連結会計期間の売上高は1,276百万円、営業利益は185百万円となりました。

② 植物育成プラント事業

植物育成プラント事業におきましては、国内および海外の顧客のニーズに応じた提案を実施し、受注の獲得を目指して積極的な営業活動を実施してまいりました。前連結会計年度に事業提携を結んだ工場運営サービスを提供する企業において、平成22年8月17日に当社グループが手掛けた第一号の植物工場が稼働開始しました。また、レストランや店舗で容易に完全無農薬の野菜栽培ができる「ミニベジプラント」を開発し、病院や医療施設、研究機関をはじめ受注獲得に注力しております。

植物育成プラント事業におきまして、当社は開発した植物育成用LED照明を提供し、株式会社フェアリープラントテクノロジーは植物工場設計技術と栽培ノウハウを提供しております。現在、海外を含め複数進んでいる商談の受注獲得に引き続き取り組むとともに、顧客ニーズに合った最適な植物工場用LED照明の開発を進めており、当社グループとして早期の事業化を推進してまいります。

以上の結果、当第1四半期連結会計期間の売上高は6百万円、営業損失は7百万円となりました。

③ 野菜事業

野菜事業は、大手GMS及びスーパーマーケット等に「てんしの光やさい」を販売して営業活動を続けておりましたが、前連結会計年度において、早期の黒字化が困難と判断したことから、事業規模を縮小し、当第1四半期連結会計期間末をもって、事業から撤退いたしました。

以上の結果、当第1四半期連結会計期間の売上高は78百万円、営業損失は48百万円となりました。

④ レストラン・カフェ事業

レストラン・カフェ事業は、安心安全な植物工場野菜の啓蒙、商品開発を目的として展開しておりました。

しかしながら、前連結会計年度におきまして、早期の黒字化が困難と判断したことから、順次事業規模を縮小しながら、当第1四半期連結会計期間末をもって、事業から撤退いたしました。

以上の結果、当第1四半期連結会計期間の売上高は9百万円、営業損失は9百万円となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第1四半期連結会計期間末において、総資産は5,279百万円（前連結会計年度末5,237百万円）となりました。これは主に、たな卸資産109百万円の増加、現金及び預金の28百万円の減少、受取手形及び売掛金32百万円の減少等によるものであります。

負債は、4,191百万円（前連結会計年度末4,271百万円）となりました。これは主に、長期借入金の129百万円の減少、賞与引当金59百万円の増加等によるものであります。

純資産は、1,087百万円（前連結会計年度末966百万円）となりました。これは主に、四半期純利益75百万円、配当金の支払40百万円、自己株式の処分損62百万円等により利益剰余金27百万円の減少、自己株式の処分による159百万円の増加等によるものであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成23年7月期の連結業績予想につきましては、平成22年9月14日付「平成22年7月期 決算短信」において公表しております数値から変更はありません。

## 2. その他の情報

### (1) 重要な子会社の異動の概要

該当事項はありません。

### (2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

#### 1. 簡便な会計処理

##### ① たな卸資産の評価方法

当第1四半期連結会計期間末の棚卸高の算出に関しては、実地棚卸を省略し、前連結会計年度末の実地棚卸高を基礎として合理的な方法により算定する方法によっております。

##### ② 固定資産の減価償却費の算定方法

定率法を採用している資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

#### 2. 特有の会計処理

該当事項はありません。

### (3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

#### ① 資産除去債務に関する会計基準の適用

当第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」（企業会計基準第18号 平成20年3月31日）及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日）を適用しております。

これによる、営業利益、経常利益への影響は軽微であり、税金等調整前四半期純利益は13,171千円減少しております。また、当会計基準等の適用開始による資産除去債務の変動額は21,429千円であります。

#### ② 企業結合に関する会計基準等の適用

当第1四半期連結会計期間より、「企業結合に関する会計基準」（企業会計基準第21号 平成20年12月26日）、「連結財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第22号 平成20年12月26日）、「「研究開発費等に係る会計基準」の一部改正」（企業会計基準第23号 平成20年12月26日）、「事業分離等に関する会計基準」（企業会計基準第7号 平成20年12月26日）、「持分法に関する会計基準」（企業会計基準第16号 平成20年12月26日公表分）及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第10号 平成20年12月26日）を適用しております。

### (4) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要

当社グループは、前連結会計年度において、2期連続して営業損失、経常損失及び当期純損失を計上し、営業キャッシュ・フローも大幅なマイナスとなりました。この結果、当社が締結しておりますコミットメントライン契約の財務制限条項に抵触いたしました。また、当該契約による借入の返済期限が1年以内に予定されております。

当第1四半期連結会計期間において、営業利益、経常利益及び四半期純利益を計上し、営業キャッシュ・フローもプラスに転じ改善の傾向にあります。また、前連結会計年度に抵触いたしましたコミットメントライン契約の財務制限条項についても、金融機関より期限の利益喪失の請求を猶予して頂くことに同意を得ておりますが、当該契約の借入の返済期限は1年以内に予定されております。

これにより、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成22年10月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年7月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	725,330	754,021
受取手形及び売掛金	1,468,629	1,501,331
商品及び製品	300,802	263,852
仕掛品	122,755	111,390
原材料及び貯蔵品	456,000	394,994
繰延税金資産	171,051	172,613
その他	93,105	106,437
貸倒引当金	△2,051	△2,885
流動資産合計	3,335,623	3,301,757
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	1,210,939	1,191,380
減価償却累計額	△337,317	△314,058
建物及び構築物(純額)	873,621	877,321
機械装置及び運搬具	260,745	259,884
減価償却累計額	△255,329	△254,896
機械装置及び運搬具(純額)	5,415	4,987
工具、器具及び備品	619,380	605,850
減価償却累計額	△506,989	△490,763
工具、器具及び備品(純額)	112,391	115,087
土地	763,028	763,028
リース資産	13,203	13,203
減価償却累計額	△13,203	△13,203
リース資産(純額)	—	—
建設仮勘定	7,191	3,996
有形固定資産合計	1,761,648	1,764,422
無形固定資産		
その他	73,709	81,552
無形固定資産合計	73,709	81,552
投資その他の資産		
その他	111,083	92,963
貸倒引当金	△2,779	△2,772
投資その他の資産合計	108,303	90,191
固定資産合計	1,943,660	1,936,166
資産合計	5,279,283	5,237,923

(単位：千円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成22年10月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年7月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	206,884	193,638
短期借入金	1,195,000	1,198,000
1年内返済予定の長期借入金	666,640	675,828
リース債務	7,762	7,729
未払金	221,195	262,985
未払法人税等	25,098	24,503
繰延税金負債	26	26
賞与引当金	125,859	66,157
その他	96,595	87,348
流動負債合計	2,545,062	2,516,219
固定負債		
長期借入金	1,503,208	1,632,246
リース債務	23,154	25,107
繰延税金負債	38,178	38,400
退職給付引当金	35,091	31,262
資産除去債務	21,564	—
その他	25,135	28,063
固定負債合計	1,646,333	1,755,080
負債合計	4,191,396	4,271,300
純資産の部		
株主資本		
資本金	461,250	461,250
資本剰余金	576,550	576,550
利益剰余金	172,611	200,313
自己株式	—	△159,007
株主資本合計	1,210,411	1,079,106
評価・換算差額等		
為替換算調整勘定	△122,524	△112,483
評価・換算差額等合計	△122,524	△112,483
純資産合計	1,087,887	966,623
負債純資産合計	5,279,283	5,237,923

(2) 四半期連結損益計算書  
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成21年8月1日 至平成21年10月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成22年8月1日 至平成22年10月31日)
売上高	900,205	1,370,425
売上原価	452,544	567,460
売上総利益	447,660	802,964
販売費及び一般管理費	693,145	703,435
営業利益又は営業損失(△)	△245,485	99,528
営業外収益		
受取利息	193	338
助成金収入	7,024	—
その他	4,153	1,968
営業外収益合計	11,370	2,306
営業外費用		
支払利息	23,057	18,840
為替差損	3,721	5,182
売上割引	1,359	2,357
休止固定資産減価償却費	5,283	—
デリバティブ評価損	266	—
その他	197	2,041
営業外費用合計	33,886	28,421
経常利益又は経常損失(△)	△268,000	73,414
特別利益		
貸倒引当金戻入額	573	115
固定資産売却益	632	—
特許関連収入	—	30,000
特別利益合計	1,206	30,115
特別損失		
退職特別加算金	12,803	—
店舗閉鎖損失	6,083	—
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	12,495
特別損失合計	18,886	12,495
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△285,680	91,033
法人税、住民税及び事業税	3,487	14,379
法人税等調整額	△90,564	1,323
法人税等合計	△87,077	15,703
少数株主損益調整前四半期純利益	—	75,330
少数株主損失(△)	△49,254	—
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△149,349	75,330

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成21年8月1日 至 平成21年10月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成22年8月1日 至 平成22年10月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△285,680	91,033
減価償却費	91,138	38,105
のれん償却額	9,734	—
退職給付引当金の増減額(△は減少)	△3,044	3,828
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	12,495
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△573	△778
賞与引当金の増減額(△は減少)	15,153	59,759
受取利息及び受取配当金	△193	△338
支払利息	23,057	18,840
有形固定資産売却損益(△は益)	△632	—
売上債権の増減額(△は増加)	△46,994	31,667
たな卸資産の増減額(△は増加)	29,338	△110,393
仕入債務の増減額(△は減少)	49,935	13,344
未払金の増減額(△は減少)	44,225	△52,673
その他	17,829	19,575
小計	△56,706	124,468
利息及び配当金の受取額	172	334
利息の支払額	△6,661	△16,613
法人税等の支払額	△7,591	△8,613
営業活動によるキャッシュ・フロー	△70,786	99,577
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△31,439	△15,934
有形固定資産の売却による収入	632	—
無形固定資産の取得による支出	△1,833	△507
その他	3,766	△18,625
投資活動によるキャッシュ・フロー	△28,873	△35,067
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△60,000	△3,000
長期借入れによる収入	50,000	—
長期借入金の返済による支出	△77,174	△138,225
自己株式の処分による収入	—	96,019
配当金の支払額	△32,941	△36,226
割賦債務の返済による支出	△2,178	△2,237
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△1,776	△1,807
財務活動によるキャッシュ・フロー	△124,070	△85,477
現金及び現金同等物に係る換算差額	△3,361	△7,724
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△227,091	△28,692
現金及び現金同等物の期首残高	1,339,535	714,168
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,112,443	685,476

## (4) 継続企業の前提に関する注記

当社グループは、前連結会計年度において、2期連続して営業損失、経常損失及び当期純損失を計上しており、営業キャッシュ・フローも大幅なマイナスとなりました。この結果、当社が締結しておりますコミットメントライン契約の財務制限条項に抵触いたしました。また、当該契約による借入の返済期限が1年以内に予定されております。

これらの状況により、当第1四半期連結会計期間末現在、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

このような状況の中、当社グループは、当該事象又は状況を解消すべく、以下の対応策を実施しております。

## 1. LED照明事業

## (1) マシンビジョン照明分野

## ① 国内販売の強化・拡大

国内における確固たる基盤を保持するとともに、今後さらなる成長が見込めるエネルギー関連業界等に積極的に取り組み、売上高の増加を図ってまいります。

## ② 世界展開の強化

海外事業部門を新設し、グローバル拡販強化のための戦略を策定し、これを推進するとともに、在外子会社とより強固な関係を築き、新興国等の需要に対応することにより、売上高の増加を図ってまいります。

## (2) 新規分野

## アライアンスの強化

戦略的なアライアンスの強化により、新規分野の早期の事業化を実現してまいります。

## 2. 株式会社フェアリープラントテクノロジー（旧 株式会社フェアリーエンジェル）の構造改革

株式会社フェアリープラントテクノロジーの企業体質の強化に向け、以下の施策を着実に履行できる経営体制の確立・強化に当社は継続して支援してまいります。

## (1) 不採算事業からの撤退及び財務基盤の強化

野菜事業及びレストラン・カフェ事業の、早期黒字化を目指して事業再構築に取り組んでまいりましたが、当該状況を改善するのは困難な状況にあり、当初の目的に対して一定の成果があったことから、順次事業を縮小し撤退してまいります。

この不採算事業の整理に伴って発生する不要資産を早期に売却し、売却資金によって負債を圧縮してまいります。また、コスト管理を徹底して不要不急の支出を抑制し、資金の効率的な運用をしてまいります。

さらに、当社の支援の下、債務超過の早期解消と安定した財務基盤構築のための資本政策を速やかに立案してまいります。

## (2) 植物育成プラント事業の確立

野菜事業で培った栽培技術及びノウハウを生かし、競合他社との差別化を図りながら、国内・海外の案件に対応できる営業体制を早期に構築してまいります。特に大型案件については、大手ゼネコンをはじめとする企業集団とのアライアンスを強化して、共同で受注獲得できる体制を構築してまいります。

また、今後、当該コミットメントライン契約の借入の返済が予定されていることから、金融機関に対して契約の更新や借り換え等の継続的な支援を要請しております。

当第1四半期連結会計期間は、LED照明事業において、受注が安定して推移していることから営業利益、経常利益及び四半期純利益を計上し、営業キャッシュ・フローもプラスに転じ改善しております。

また、連結子会社である株式会社フェアリープラントテクノロジーにおいては、不採算事業である「野菜事業」、「レストラン・カフェ事業」から当第1四半期連結会計期間末に撤退し、新体制の下、当社からの支援を受け、植物育成プラント事業の確立及び財務基盤の強化に努めております。

加えて、前連結会計年度において、抵触いたしましたコミットメントライン契約の財務制限条項は、金融機関より期限の利益喪失の請求を猶予する旨の同意を得ております。

しかしながら、今後の景気動向は依然として不透明な状況にあり、業績は回復しているものの、対応策は履行段階であるため、現時点では、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

なお、四半期連結財務諸表は継続企業を前提として作成しており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を四半期連結財務諸表に反映していません。

(5) セグメント情報

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は製品・サービス別に構成した事業単位に区分された財務情報に基づいて、各事業単位の国内及び海外の包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

従って、当社は製品・サービス別のセグメントから構成されており、「LED照明事業」、「植物育成プラント事業」、「野菜事業」及び「レストラン・カフェ事業」の4つを報告セグメントとしております。

「LED照明事業」は、工業分野、民生・商業分野、アグリバイオ分野、メディカル分野のLED照明装置器機及び制御装置、オプション等の生産・販売を行っております。「植物育成プラント事業」は、完全制御型植物工場の販売、企画・設計、運営コンサルティングを行っております。「野菜事業」は、葉菜類の生産・販売を行っております。「レストラン・カフェ事業」はレストラン・カフェの経営を行っております。

なお、当第1四半期連結会計期間末をもって、「野菜事業」「レストラン・カフェ事業」から撤退しております。

2. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

当第1四半期連結累計期間（自平成22年8月1日 至平成22年10月31日）

(単位：千円)

	報告セグメント					調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	LED照明事業	植物育成プラント事業	野菜事業	レストラン・カフェ事業	合計		
売上高							
外部顧客への売上高	1,275,912	6,980	78,151	9,381	1,370,425	—	1,370,425
セグメント間の内部売上高 又は振替高	675	—	—	—	675	△675	—
計	1,276,587	6,980	78,151	9,381	1,371,100	△675	1,370,425
セグメント利益又は損失 (△)	185,704	△7,630	△48,876	△9,873	119,324	△19,796	99,528

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△19,796千円には、セグメント間取引消去1,561千円、各セグメントに配分していない全社費用△21,357千円が含まれております。全社費用は、株式会社フェアリープラントテクノロジーの管理部門に係る費用であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(追加情報)

当第1四半期連結会計期間より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準第17号 平成21年3月27日)及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日)を適用しております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当社は、平成22年7月26日開催の取締役会において、三菱化学株式会社を割当先とする第三者割当による自己株式の処分を行うことを決議し、平成22年8月11日に払込手続が完了しております。

この結果、当第1四半期連結累計期間において、利益剰余金が62,988千円減少、自己株式が159,007千円減少しております。

なお、当第1四半期連結会計期間末において、自己株式はありません。

## 4. 補足情報

## (1) 生産、受注及び販売の状況

## ① 生産実績

当第1四半期連結会計期間の生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称		当第1四半期連結会計期間 (自 平成22年8月1日 至 平成22年10月31日)	前年同四半期比 (%)
L E D 照 明 事 業	LED照明装置 (千円)	348,735	—
	制御装置 (千円)	100,729	—
	その他 (千円)	40,592	—
	小計 (千円)	490,057	—
野菜事業 (千円)		99,947	—
合計 (千円)		590,004	—

(注) 1. 金額は、製造原価によっております。

2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

## ② 受注状況

当第1四半期連結会計期間の受注状況をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称		当第1四半期連結会計期間 (自 平成22年8月1日 至 平成22年10月31日)			
		受注高 (千円)	前年同四半期比 (%)	受注残高 (千円)	前年同四半期比 (%)
L E D 照 明 事 業	LED照明装置	881,378	—	261,850	—
	制御装置	197,561	—	31,028	—
	その他	76,074	—	9,640	—
	合計	1,155,013	—	302,519	—
植物育成プラント事業		4,080	—	3,100	—
合計		1,159,093	—	305,619	—

(注) 1. 金額は、販売価格によっております。

2. 野菜事業は、見込み生産を行っているため、該当事項はありません。

3. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

## ③ 販売実績

当第1四半期連結会計期間の販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称		当第1四半期連結会計期間 (自 平成22年8月1日 至 平成22年10月31日)	前年同四半期比 (%)
L E D 照 明 事 業	L E D照明装置 (千円)	997,680	—
	制御装置 (千円)	198,449	—
	その他 (千円)	79,781	—
	小計 (千円)	1,275,912	—
植物育成プラント事業 (千円)		6,980	—
野菜事業 (千円)		78,151	—
レストラン・カフェ事業 (千円)		9,381	—
合計 (千円)		1,370,425	—

- (注) 1. セグメント間の取引については、相殺消去しております。  
2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

## (2) 海外売上高

前第1四半期連結累計期間 (自平成21年8月1日 至平成21年10月31日)

	北米	欧州	アジア	計
I 海外売上高 (千円)	73,119	143,317	75,848	292,285
II 連結売上高 (千円)	—	—	—	900,205
III 連結売上高に占める海外売上高の割合 (%)	8.1	15.9	8.4	32.5

当第1四半期連結累計期間 (自平成22年8月1日 至平成22年10月31日)

	北米	欧州	アジア	計
I 海外売上高 (千円)	88,705	270,563	111,438	470,707
II 連結売上高 (千円)	—	—	—	1,370,425
III 連結売上高に占める海外売上高の割合 (%)	6.5	19.7	8.1	34.3

- (注) 1. 国又は地域は、地理的近接度により区分しております。  
2. 各区分に属する国又は地域の内訳は次のとおりであります。  
北米……………米国、カナダ  
欧州……………ベルギー、ドイツ、アイルランド、フィンランド等  
アジア……………中国、台湾、韓国、シンガポール等  
3. 海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域における売上高であります。